

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177400231&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者が、地域の人と共に安心して、楽しく暮らせる生活環境作りを目指しています。
・デイサービスを開設しており、地域のニーズに貢献しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「夜高あんどん祭り」で有名な沼田町唯一の町営のグループホームである。同じ町営の特別養護老人ホームと養護老人ホームが両側に隣接し、様々な場面で連携協力し、利用者も一緒に馴染みの関係となる事で住み慣れた地域に共生している。取り組みとしてホームでは、外出の機会を多く計画し、利用者自ら毎日散歩にも出掛ける等、地域と親しむことを自然体として捉え、各種催事へ見学参加・イベントへ出席、また地域にある「ほろしん温泉ほたる館」へ家族と職員も一緒に年2回出掛け、温泉入浴を楽しんでいる。利用者の希望に沿って自宅や畑等にも行ってもらい、荷物や作物を取りに行く支援もしている。リビングで寛いでいる姿はほんのりと温かく、管理者と職員が目指す「利用者が地域の人と共に安心して暮らせる生活環境を提供します」が実践されている。今後求められているグループホームでの終末の在り方について、欠かす事の出来ない医療関係者との連携を、町全体の大きな課題と捉え検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1度、理念について職員間で話し合いの機会を持ち、利用者のケアに反映されているか確認している。理念を事務所、ホールに貼り出したり、ネームの裏に貼り付け個々に意識し、実践している。	理念はホーム内の要所に掲示し、職員各自がネームに記載されたものを持ち共有理解に努めている。利用者は日常の生活で馴染みの家へ行ったり、農協で買い物、今まで楽しんでいた手芸や野菜作りに継続して関わる事で、理念の趣旨に沿い今までと変わらない生活となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の作品を町民芸術祭に展示したり、隣接している高齢者施設の行事に参加して、地域の交流を深めている。また、健康維持の為、散歩や買い物等に出かけ、地域の方々と挨拶を交わしたり会話をしている。その他、近所の方やご家族から、野菜等頂いたり、近隣の高齢者施設と協力しながら菜園や花畑を作っている。	地域の環境を利用した様々な交流・イベントに参加している。近隣の散歩や買い物で馴染みの方と挨拶したり世間話をする等、住み替えた事による不安は全く感じられない。町内役員の方が運営推進会議へ参加し、事業所内を見学し様子を見てもらったり、災害時の協力・連携についても常に話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスを開設し、地域のニーズに応えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に5回、運営推進会議を開催している。単に会議形式ではなく、火災訓練に参加して頂いたり、温泉や食事会を組み合わせたり、家族と交流する場面も作っている。利用者家族が参加しやすい雰囲気作りに努め、開催回数を増やす努力をしている。	今年度は5回の開催で、運営推進会議のメンバーとして町内役員・行政職員・ホーム職員が参加して開催を続けている。開催日に内容を工夫することで参加しやすい雰囲気を作り、近況や活動報告をしている。	今後は会議の題材を工夫する事で年6回開催を目指し、地域の方がグループホームに何を感じているのか、又ホームとして地域に何が出来るのか、多くの方に参加を頂く事で意見交換が出来るように活性化が期待される。会議後の欠席家族への報告も引き続き望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームとしては、数少ない公立の利点を生かして、積極的に町の担当者と情報交換をしたり、社会福祉協議会にも訪問し、利用者サービスの向上や関係機関との交流を深めている。	行政とは運営推進会議の参加協力に止まらずあらゆる面で連携・交流に努めている。職員は今後のホームの在り方として地域を含め、利用者や家族の想いに応えられるように行政の取り組みに期待している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは我が家と同じと考え、玄関に鍵をかけない事を職員、家族、地域にも理解して頂いている。帰宅願望があつたり外出したいという利用者には付き添い対応している。家族には身体拘束をしない事の説明や万が一、行方が分からなくなった時の対応をマニュアル化して理解を頂いている。	身体拘束をしないケアは会議や研修で理解を深める取り組みをしている。現在ホームでは全く対象がなく、止むを得ずケアに関わる時は家族に相談・説明、理解に努める対応となっている。玄関の施錠については、通常行っていないが、通院や買物で職員不足の時のみ、短時間内容を記録し施錠となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議において、虐待についての話題に触れ、身体的な行為だけでなく、言葉使いや心理的な行為についても理解しえる機会をもうけている。職員に研修の機会があれば、積極的に出席するように促している。運営推進会議を利用して、家族の虐待行為について学ぶ機会を設けている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業の研修に出席したり、職員全体会議において出席者に説明し、知識と理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に伴う契約はもとより、重要事項説明書についても丁寧に説明している。後ほど不明な点があれば、その都度理解して頂くように説明している。また状態の変化や、施設運営等により契約の改正をする場合は、利用者、家族に詳しく説明し、同意を得るように心懸けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際には、現在の様子を報告し、家族が意見・要望を言いやすい雰囲気作りをしている。また、施設内に外部機関の連絡先を表示している。家族から寄せられた意見・要望は、連絡ノートや会議で全職員に伝え改善を図っている。日頃から利用者との会話の中で、本人の要望や意見を聞きだす工夫を行い日々、運営に生かせる努力をしている。	家族が面会に訪れた時に、日頃の様子や気付いた事、また要望を聴いている。遠方の家族には電話や通信で報告し、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族へのアンケートや利用者との会話の中で職員は聞き取れるように工夫している。また、管理者とケアマネからそれぞれ定期的に通信が発行され、健康状態やホーム内の様子、ケアプランに沿った状態の報告がある。昨年課題であった金銭出納の家族への報告は、改善され毎月家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と介護職員は、常に利用者、家族の状況の変化を把握して対応できる体制を作っており、開設者へも、その都度報告をしている。また毎月、職員全体会議を開き、職員の意見や要望を聞く機会を設け、充実させる努力をしている。	月1回の定例会議を始め、ケアマネ主催のカンファレンスも行われ、各職員は意見を出し合いながらサービスの質の向上に向け、話ができる機会がある。出された意見の反映もあり、職員は意欲的に利用者と向き合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にホームを訪れ、利用者の様子や職員の勤務状況を把握している。さらに就業規則に基づき労働条件を整えており、可能な限り職員の資格取得の配慮を行うと共に、誰もがやりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員が、利用者への適切なケアが出来る様に、日々丁寧な指導に努めている。研修は、一部の職員に偏らないように出来る限り配慮し、研修後は報告の場を設け全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と介護支援専門員は、会議や研修において同業者との交流が行われている。一般職員においては、近隣施設で行われる研修に参加して、施設間の交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談において、本人の出来る限りの情報を把握するように努めている。次に、本人の不安を取り除く為に、通所から利用を始めるなど、本人に合わせた対応が出来るように努めている。さらに、本人や家族からの相談には相手の立場になって受け止め、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとっても入所は不安である為、少しでも不安感や不信感を取り除き、信頼関係を築く為に出来る限り家族から、今までの苦労や今後の希望なども伺っている。また担当職員を覚えて頂いたり、施設の運営や年間行事などを説明し、安心して本人を預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談において、家族と管理者、介護支援専門員の間で本人や家族の思いと、今までの状況を確認し、必要なサービスとして何が出来るか協議し、家族に説明して理解して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員がグループホームを第二の我が家でもあると思う、利用者も職員も同じ家族だという意識を持って、生活出来るように努めている。また職員全体会議や研修において、利用者との関わり合いについて学ぶ努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されることで、利用者と家族が疎遠になったり、ゆだねっぱなしにならないよう一番の支えが家族であることを理解して頂く。そのため、定期的に本人の状況をお伝えしたり、施設に来やすい雰囲気作りと、家族も関わりやすい機会を作る努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の敬老会や、お寺の報恩講に出席されたり、入所前に住んでいた場所や地域を訪れたり、利用者さんの馴染みのお店に行くなどの機会を作っている。また、古くからの友人が来られるなど、気軽に立ち寄れる場所としての雰囲気作りにも努めている。	ホームに入居された後も自分の家へ帰ったり、近くの温泉で知り合いと顔を合わせたり、馴染みの方との交流がいつもある。家族・友達の訪問に地域のボランティアが来園してくれたり、今まで親しんでいた地元のイベントに出掛ける事で知人に会うことも多く、いつもと変わらない生活支援が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で、利用者一人一人が孤立せず安心して生活出来るように職員で取り組み、小さなトラブルでも見逃さないように努力している。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、親しくしていた利用者等に会いに行ったり、来てくれるように心懸けている。他の施設に移られた場合はアセスメント、ケアプランや支援状況の状況の引き継ぎを充分に行い、新しい場所でも本人が戸惑わないように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいのか、本人の思いや希望を聞き取り、家族からの情報を出来る限り把握するように努めている。日々の生活の中で本人の表情や仕草等から、何に対して興味を示し喜ばれているのかを推測し、本人にとって充実した生活を送れるように努めている。	入居時のアセスメントやその後の課題の把握、計画に添った介護記録・介護日誌に記載する事で状況を確認している。職員は日常の会話や様子から、想いを的確に表現出来ない部分も捉えられるようにしている。フェイスシートの充実を図り、現状を把握した内容を再作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が気になる行動を起こす時、必ず要因があると考え、些細な事でも家族や知人から要因に繋がる情報がないか聞き取りを行っている。なお、触れて欲しくない過去もあるので充分プライバシーの配慮に気を使うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族も知らない本人の能力が、日常生活の中で発揮される事もあるので、様々な体験が出来るような機会を作り、一つでも多く出来ることを見つけ出している。職員全体会議で利用者の生活能力を取りあげ、職員同士でも気づいた事や、本人の可能性を話し合い、より良い支援に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス利用開始時には、ご家族や社会福祉協議会等の情報を参考に、暫定的な介護計画を作成している。その後1カ月程度の経過をみて、職員全員の意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、さらに本人の意見や要望を伺った上で、本計画に反映している。なお、この計画はその都度、家族に説明している。	日常の記録は、介護計画の目標に沿った利用者の様子を記入するよう努めている。モニタリングや評価がスムーズに行えるよう職員のスキルアップを図り、見直しや状態が変化した時は家族と話し合い、現状に即した介護計画作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、食事、水分、排泄、睡眠状況は勿論の事、本人のその日のエピソード等を職員が記録しすべての職員が確認出来るようにしている。また夜勤、日勤の引き継ぎにおいても前日までさかのぼって、本人の様子がわかるように説明し、引き継いでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出行事や誕生会等、家族も一緒に同席したい等の要望があれば、出来る限り応えるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町のスーパーや美容院を利用したり、施設に来られる本の読み聞かせボランティアや、音楽ボランティアとの触れあい事業や、隣接の施設の利用者さんと菜園を通じて交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が町内の医療機関を利用しており、施設にて通院支援を行っている。町外の病院を受診する場合は、家族が対応することとなっているが、必要に応じて職員が同行したり文書にして詳しい説明をしている。	受診は本人や家族の希望を尊重しながら、従来からのかかりつけ医に受診支援をし、受診後の報告も適宜されている。遠方の医療機関や他科については、それぞれの事情に対応し職員が同伴するなどの配慮も見られる。	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に、利用者の状態に気をつけて生活している。看護職員の配置はしていないが、隣接している施設の看護師と連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、家族、病院、なごみの三者で今後の対応について十分協議して、本人が一番良い形で退院につながるよう進めている。また、入院時は、本人の生活支援の状況を病院に伝えと共に、職員が定期的に病院に訪問し、病院での本人の様子を確認し、家族へも伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では医療行為が発生しない範囲で、可能な限りサービスを提供する方針としている。重度化や終末期の対応は、利用開始時に利用者や家族に方針を説明したり、重要事項説明の追加で説明させて頂き、その都度納得をして頂いている。	昨年度の課題であったこのホームで出来る最大のケアとして、重度化や終末期に向けた方針を示す指針が重要事項説明書に追加され、利用者家族に説明し同意を得ている。沼田町の医療機関との連携がまだ構築されていない為、終末期・看取りの体制は今後の検討となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、行政関係や消防の協力を得て、救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。より現実に近い避難を想定し、消防や隣接する介護施設や町内会と共に訓練を行っている。また、運営推進会議に合わせ避難訓練を行い、ご家族や行政、地域包括支援センターの職員にも見学して頂き感想や意見を頂いている。	夜間想定を含めた年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議に合わせ、行政職員や町内の方にも協力を求め避難訓練を行い、緊急時の混乱や大切さを実感してもらい、協力・連携について常に話し合っている。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけやトイレ誘導の際は、本人や他の利用者へのプライバシーに配慮するように心懸け、気になることは職員会議で話しあっている。個人記録は、カギのかかる場所とパソコン内に保管している。面会受付簿は、単票保管としてプライバシーを守っている。	楽しく明るい生活を続けるために、家庭的な雰囲気を作りながら一人ひとりの尊厳を大切に、挨拶や声掛けには十分注意を払っている。各種書類の保管や個人情報保護については、一人ひとりを尊重する取り組みに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人一人が、利用者支援の為に日頃から密接な関係を持ち、意思表示しやすい環境を作っている。色々な行事を行う場合も全て職員で決めたりせず、利用者からも意見や要望を言える機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は、なるべく本人の要望を尊重しその人のペースに合わせて物事を進めている。一人ひとりの趣味や志向に合わせた対応を心掛けている。利用者の希望も聞きながら、外出計画を立て実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意思で決めており、見守りや支援が必要な時のみ職員が手伝っている。日頃からオシャレやお化粧を楽しみたい利用者には、行事等に合わせて職員がお手伝いさせて頂き、一緒に楽しんで頂いている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食事の後片付け等、利用者が出来ることをお手伝いして頂いている。味見や調理の仕方を聞くなど、調理に参加する工夫もしている。食事中は音楽を掛け、職員も一緒に入りながら、和やかな雰囲気を作っている。	職員は利用者の間に座りながら一緒に食べたり、自分で食べる事が難しい方にはお手伝い、会話を盛り込みながら楽しく食事が出来るように工夫している。それぞれの技量に合わせ調理の下拵えや、味付け、片づけも一緒にしている。外食や出前、イベントに合わせた内容もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が、利用者個人の水分量や食事の記録を管理し、不足していれば摂取してもらえる工夫をしている。また利用者一人一人の嗜好も把握し、その人に合わせて栄養摂取に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣として、利用者に食後の歯磨きや、うがいを施行しケアをしている。ケアを行う際は相手の気持ちを配慮しながら、本人のケア能力が引き出せるように心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての利用者がトイレで排泄出来ているが。パットや紙パンツ使用している方もおり、排泄パターンを記録しながら排泄の自力に向けた援助や支援をしている。	管理者及び職員は、利用者の排泄パターンに十分配慮し、トイレでの自立した排泄を促している。夜間の対応もトイレ排泄を基本に、希望に沿った対応をしている。退院後の排泄状況改善の取り組みにも成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	比較的、普段体を動かさない利用者便秘がちの方が多く、乳製品や野菜ジュース等で対応したり、食物繊維等の多い食事を提供するなど心掛けている。またリハビリ運動や、風船パレー等個々にあった運動も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回入浴して頂いているが、入浴日以外でも希望や必要に応じ、足浴やシャワー浴等を行っている。また、利用者同士で、仲良くお話ししながら入浴出来るように、時折温泉にも出かけている。	週に2回の入浴の他、希望により他の日に入浴・シャワー浴の対応もしている。拒否のある方については他の利用者と声を掛けあって一緒に入浴する等、その場に合った対応となっている。年2回温泉に行く計画もあり、職員と一緒に入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムを考え、夜は穏やかに休めるように配慮している。眠れない利用者がいれば、寄り添い会話をしたり、落ち着いて休める環境作りを工夫している。また日中は、なるべく体の負担にならない程度に体を動かし、体調を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋を個人ごとにファイルしている。職員が把握しやすいように、投薬箱に内服の内容と数を記載し、間違いの無いよう対応している。また、薬の処方や内容が変更になった場合は、状態を観察・記録し、医療機関等に相談している。また、誤薬が生じた際はマニュアルに沿って対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が得意分野で力が発揮してもらえるように、菜園や水稲作りをしたり、掃除・洗濯・調理のお手伝い等、利用者の負担が掛からない程度にお願いし、終わった後は感謝の言葉を伝える様にしている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしたり、週に2回は買い物に出かけ、ショッピングを楽しんで頂いている。また、利用者の希望を取り入れながら行事を企画し、動物園や外食、色々なイベント等に出かけている。また、昔なじみの土地や場所に行き、当時の様子を話しながら懐かしんで頂いている。	ホームでは外出の機会を多く計画し、利用者自ら毎日散歩にも出掛けている。地域と親しむことを自然体で捉え各種祭りの参加・イベントへ出席、地域にあるほろしん温泉ほたる館へは家族と職員も一緒に年2回出掛けている。利用者の希望に沿って自宅や畑などにも行き、荷物や作物を取りに行く支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が、お金を使うことで満足感と社会とつながっていることを実感出来る様、外出時に支払いの場面を作り、出来る範囲で精算など行っている。また家族の了解と、本人希望で、おこずかいを渡し、買い物したり計算しながら使用する機会をもうけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を書きたい場合は、気軽に出来る様に用意したり、依頼があれば代執している。施設の電話はプライバシーも配慮し自室でも話が出来様に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者や家族の写真・季節の装飾がされている。フロアーには利用者の作品が飾られており、家具調度品や熱帯魚の水槽で、家庭的な雰囲気作りをしている。2か所に大きな吹き抜けもあり、自然光を取り入れた開放的な造りとなっており、床暖房で自然なぬくもりを調整している。	吹き抜けから温かい日差しが差し込み、家庭的な空気が感じられるリビングであり、利用者はゆったりと自由に暮らしている。季節を感じることで出来る装飾が施され、写真や手作りの手芸品が展示されている。掃除も行き届き、室温や湿度も適宜調整している。利用者のすぐ近くで準備される食事の匂いが食欲を注いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、利用者の居住空間が、フロアーと居室のみで、自室以外は落ち着きのない雰囲気である。そのため、ソファや食卓テーブル、テレビの位置等で工夫を凝らし、少しでも安全で落ち着いて過ごせる空間作りを検討している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が落ち着いて過ごせるように、馴染みのタンスや仏壇等の家具を使用している。壁にも自分で自由に写真や表彰状や、誕生日カード等を飾る空間作りをしている。	各居室にはカーテン・押し入れ・ストーブ・物干し竿が備わり、整理タンスやベッドなど使い慣れた品が持ち込まれ自分らしい設えとなっている。手作りの作品や、誕生日に職員から贈られた写真・似顔絵などの装飾が微笑ましく入室時に迎えてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、出来るだけ利用者がくつろげる環境を心懸けている。また体力の低下等、利用者の状態に合わせて家具の安全な配置と、安心して入浴出来る様に介護器具の設置等、その都度職員で話し合い検討対応している。		

目標達成計画

事業所名 沼田町グループホームなごみ

作成日：平成 24年 3月 27日

市町村受理日：平成 24年 3月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営会議開催が以前より段階的に増やしているが年5回にとどまっており会議録についても家族に送付されていない。	年6回の運営会議開催及び会議録の家族への送付。	会議の開催方法を工夫しながら年6回開催に向けて計画し、会議を欠席した家族宛に会議録を送付する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。